山梨リニア実験線では、工事による地下水の流出・枯渇、あかり部高架橋による日照被害、景観破壊、そして地域の分断など、住民生活に重大な影響が出ている。放置するJR東海、座視する国の責任は大きい。　（文・写真＝天野）

(上は南アルプストンネル山梨県側試掘口)　　(上は山梨県笛吹市御坂町のリニアあかり部)

超党派の国会議員団が山梨リニア関連箇所を初めて視察、沿線住民から熱心にヒアリングも

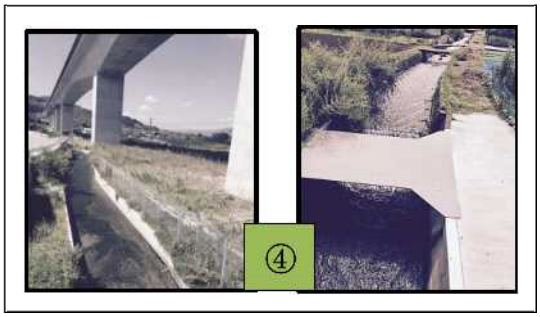
8 月 31 日、公共事業チェツク議員の会(会長＝荒井聡衆院議員、事務局長･初鹿明博衆院議員、ともに民進党)所属の 9 人の超党派衆参国会議員と、他の議員秘書が山梨県内のリニア実験線や山梨県駅予定地、南アルプストンネル坑口など数カ所を視察し、ルート沿線住民からヒアリングを行いました。[国会議員が超党派でリニア関連箇所を視察するのは初めてで、異口同音に。「現地を見て、切実な住民の声を聞き、問題の大きさが良く分かつた。また、JR 東海が住民に対し情報を知らせず、誠意ある説明や補償策を実施していないことが分かつた。国会で実態を伝え、リニア新幹線計画について本格的な審議を行いたい」と話しました。

視察は午前 10 時すぎの県立リニア見学センター(都留市)からスタートしました。議員の会はあらかじめ JR 東海に対し見学会の案内と説明を要請しましたが、JR 東海は「個別には対応しません」と拒否したという事です。でも了月には報道陣 100 人を試乗させＰＲに努めていたのです。JR 東海の傲慢な姿勢は目に余ります。一行は見学館でリニアの模擬車両や超電導磁石、山梨県内のリニアのジオラマなどを見学、出発間際にはリニア実験車両の走行を目にしました。「ゴオー！」という走行音の大きさにびっくりしました。実験線は複線ですが、供用時、頻繁にすれ違い走行になれば、騒音や振動はかなり増幅されるものと見られます。

（①は見学センター前の議員、②はリニア実験線駅）

次に、バスで笛吹市御坂Ｕに向いました。そこではブドウを栽培している雨宮融さんから話を聞きました。雨宮さんの自宅や畑の一部は上空にリニア実験線の高架橋があり(写真③)、日照時間が著しく減少し、生活面やブドウ栽培に大きな影響が出ています。日照時間の減少は温度の低下を促すため、池の水温が下がり錦鯉が全滅したと|毎しそうに話しました。

日照不足の俑償として、JR 東海は夫婦二人分の暖房費(燃料代)として 30 年分を支払つただけで、土地の買い上げはしなかつたそうです。雨宮さんの案内でＵ内上黒駒の、実験線トンネルからの出水現場に向かいました。上流 8 キロの沢や一部集落の井戸が枯れてしまったそうです。出水量は毎分 30 トンに上り、JR 東海は水路をつくり、それを川に流しています。実験線沿線では上黒駒以外でも同じ事態が起きています。(写真④)



3 ヵ所目は、リニアあかり部と山梨県駅立地予定の甲府市大津町、中央市極楽寺付近です。県工業技術センターの上部階から甲府市議会議員の山田厚さんの説明を受けました。センターに隣接する農地にリニア中間駅が予定されていますが、低地にあることで水はけが悪く、地盤も軟弱で、安政地震の際は民家の 90%以上が倒壊した歴史もあり、新駅建設には難工事が予想され膨大な費用が必要です。またリニア新駅にかこつけて４万人収容のサッカースタジアムの建設やカジノ誘致などの動きがあり、1 時間に 1 本しか停車しないリニア利用客をあてにしても採算が取れず地元にとって負の遺産になります。

次にセンター北西側に桑畑を所有する内田　学さんが駅から南アルプスに延びるリニアのあかり部の高架橋は高さ 30～４０ｍにもなり、景観を破壊する上、住民への日照被害や風害も心配だと訴えました。JR 東海は高架橋を低く見せる想像写真を示し、景観に影響は無いと説明していますが、内田さんの案内でイメージ写真の原版を撮影した現場から見たところ、実際は山並みが見えない高さにつくられることが分かりました。(写真⑤がイメージ写真撮影地点)

このあと一行はリニア高架ル一目こかかる南アルプス市旧甲西町宮川･戸田地区に向い、両地区をリニア高架橋が分断する宮川公会堂で、自治会長ら地元住民から、住民に対する JR 東海の傲悒な姿勢や説明不足への怒りと不安の声を聞きました。

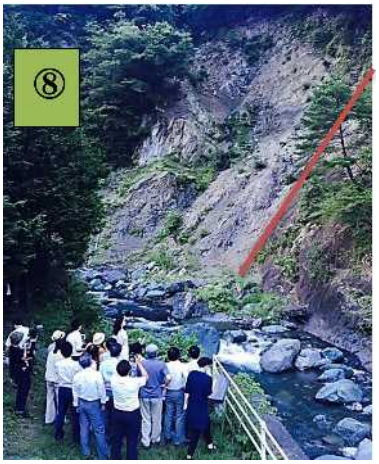
超党派の国会議員の訪問は初めてのことで、住民からは｢国会で徹底的に議論し、国民にリニアの不当な部分を知らせてほしい｣との要請があり、議員からは｢皆さんの活動は沿線の人たちにとって大きな葉が身になっている。秋の国会では皆さんの声をしつかりと知らせて行く｣との回答がありました。(写真⑥)

このあと、議員団はバスで 10 分ほど離れた富士川町の山梨県森林総合研究所に向いました。研究所は櫛形山の山麓にあり、早川町の南アルプストンネルに通じる巨摩山地トンネルの坑口になります。ここでは藤川町会議員の川口正満さんから地質やリニアエ事による影響などについて説明を受けました。

前面には甲府盆地が広がり、後方の山裾には緑の森が広がる風光明媚なところです。そこに眼下からリニアの異様なカマボコ型の高架橋が延びて来て、広場を横切りトンネルに入ると

なると、景観は台無しで、豊かな自然環境にも大きなダメージを与えることになります。議員も「えーつ、こんなところに」と驚いていました。(写真⑦が森林総合研究所の広場)

　最後の視察地は早川町の南アルプストンネル坑口工事現場でした。早川Uまではバスで1時間ほどかかりましたが、坑口に近い新倉にある糸魚川･静岡構造線の露頭地を見学しました。山肌に二つの活断層が接している様子を見られるのは珍しく、この断層をリニアのトンネルが横切ることになります。そこから1キロほど早川を遡つたところに南アルプストンネルの山梨県側の坑口がありました。本坑に先だってJR東海は3キロほどトンネルを試掘し、本坑工事にかかっても大丈夫だと説明しているようですが、まず試掘坑口を広げ、南アルプス直下を掘り進むには地下水、環境影響など難関が待ち受けており、残土の処理や工事車両の走行路の拡張なども必要で、そこまでしてリニアをつくる必要があるのかという疑問を新たにしました。(写真⑧は早川町新倉の断層露頭。赤線が断層)



工事を急ぐJR東海は早川Uに作業員宿舎をつくり、秋から本格的な坑口の工事を急いでいます。ここで、視察は終了･解散しました。

　視察の参加議員は、民進党の初鹿明博(衆)、阿部知子(衆)、日本共産党の穀田恵二(衆)、畑野君枝(衆)、本村伸子(衆)、島津幸広(衆)、井上哲士(参)、山添拓(参)、おおさか維新の石井苗子(参)の以上9人の皆さんでした。お忙しい中、ありがとうございました。また、視察先で熱心に説明や訴えをしていただいた沿線の皆さんにも感謝いたします。(以上)

9月25日、リニア立木トラストの桑の木を手入れ

9月25日(日)AM10:30
場所:山梨県中央市極楽寺363
名札の付け替えや剪定をします。
立木トラストはリニアルート下の桑の木約500本を所有しています。